

第 34 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 2 年 8 月 27 日 (木) 19 : 00 ~ 21 : 17
- 場 所 栗東市総合福祉センター (なごやかセンター) 集会室
- 主な質疑・ご意見

1. 前回の開催結果の確認について

- ①家庭系ごみ井戸の鉄の水質は、上流側の C-9 地点が最も高く、下流側の C-7 地点では他の地下水が混じって薄くなったとの説明は理解できるが、他の物質でも数値的に同じ事がいえるのか。ある程度計算して検証していただきたい。
⇒必ずしも物質が地下水と同じ速度で流れているわけではないので、検証することは難しいが、必要に応じてそういう検討を考えている、と回答しました。
 - ②深掘穴の水が、入れ替わらなかったら入れ替わるようにするような方策をすとか、そういうお答えがいただきたい。
⇒(水が) 全く入れ替わらないということではないと思いますので、どの程度入れ替わればいいのかは、今後のガスの発生状況等を検討し、支障がある場合は何か対策を立てる必要があると思っています。その辺はトータルに見ながら評価していきたい、と回答しました。
 - ③北尾側のモルタル吹付について、なぜ事前説明なしで工事をしているのか。こういうことがないように最初に取り決めをしている。何で北尾だけを配慮して、私らを軽視しているのか。
⇒協議会の席で、シート張りは工法的にこの現場に向いていないという意見があり、北尾側のシート張りは施工後 5 年近く経過し張り替えの必要性があり、シートのたわみがないことから圧密沈下も終わっていると判断しました。また、今後の維持管理も考慮しモルタル吹付工としたところです。この施工について、会議の中で説明していなかった事は大変申し訳ないと思っています、と回答しました。
- ・この他、経堂池の調査継続を求める意見に対し、調査が必要な理由として経堂池の利用計画をまとめて報告を求める意見があり緊急時に農業用水として必要である等の意見のやりとりがありました。

2. 工事等の進捗状況について

- ④水処理施設が唯一の恒久施設として今後も残るため質問するが、この調査結果から明らかに(1)原水貯留槽の許容支持力が他の場所よりも低く、この地下には間違いなく廃棄物が埋まっており、ぎりぎり設計支持力が満たされている状況であると判断してよいか。
⇒平成 22 年のボーリング調査から廃棄物土が約 12m 程度まであり、土が主体でコンクリート殻、アスファルト殻、木くずやプラスチックが混ざっていることを確認しております。また、ドラム缶のような有害なものは確認されていません。

その結果から、ぎりぎり設計支持力が上回っている状態です、と回答しました。

3. 令和2年度第1回モニタリング調査結果について

⑤資料 3-1 は前の説明と同じか。No. 1-1 の井戸の電気伝導度が 69mS/m あり、何が原因かわからないと安心できない。

⇒基本的には同じ内容の資料です。調査の結果から処分場由来ではないとの考えであり、現状、電気伝導度は高いが基準超過した有害物質の項目もないので原因を調べる調査は特に予定しておりません、と回答しました。

⑥H26-S2(2)井戸の水位が上昇するのは遮水壁によって押し留められているからだというのは理解するが、きれいな水が入ることで薄まり電気伝導度は下がるはずで、下がらないということは廃棄物があることで入ってくる水が汚れているからと考えられないか。

⇒水は上流から入って流れてくるだけで、途中からは入ってこないため、地下にホースがあると思ってください。上流がホースの入口の端で、出口の端に遮水壁ができてホースの先を潰した状態になっています。入口から水が入って水圧が上がっても、ホースの先を潰した状態で水がほんの少ししか流れていないため、水圧は上がるが、きれいな水が流れてくるのには時間がかかります、と回答しました。

⑦H26-S2(2)井戸は、遮水壁の有効性を確認する井戸であり機能上問題ないのか。また、遮水壁の有効性を考えるために、一旦水を抜いたほうがいいのではないか。

⇒もし、遮水壁が機能してないとすれば、遮水壁の内外で水位が同じになるはずですが、今、水位差があるので漏れている状況ではないと考えています。水を抜くことについては、アドバイザーに相談する中で H26-S2(2)の井戸を洗浄してみてもどうかとの意見もあり、今後検討したいと思っています、と回答しました。

4. アーカイブの作成について

⑧この問題が起きた時に、滋賀県は「法の不備」、栗東市は「産廃行政は県の責任」と言っていて、住民側としては怒りのやり場がなかった。この問題が明らかにしたことは行政システムの機能不全だと思う。不法投棄事件を未然に防ぎ、それを解決する県や市の行政システム全体の問題を視野に入れなければ、しっかりとした総括はできないと思う。県は当時の産廃行政の問題として記述するのだろうが、栗東市の関わり方についてお聞きしたい。

⇒(栗東市)住民の皆さんが強い思いを持ってここまで来ることができたのだと思うので、それぞれの立場で、当時の行政システム全体のまとめ上げが必要ではないかと感じております。その中で、栗東市としていい対応もまらなかった対応もあったと覚えておりますので、そういった部分を含めての話になるのかなと感じております、と回答しました。

⑨特にこのRD処分場は当時の町長、市長の親族企業だったということと鴨ヶ池のところには町営の一般廃棄物のごみ捨て場があったということで、栗東市の関わりがすごく大きいと思いますので、その点はしっかりこのアーカイブの中で残しておく必要があるのではないかと思います。

⇒（栗東市）今後そのようなご意見をしっかりと受け止めて、作成についても関わっていきたいと思っております、と回答しました。

その他アーカイブ作成について下記の意見をいただきました。

○RD問題は、行政システムの問題であると同時に地域社会の問題だと思う。現場は地域の聖地であり、お寺もあるし神社もある。そして、小野の人達にとってみれば里山、里池があった。それがこのようになってしまった。これは小野だけの問題ではない。滋賀県は盆地であるから琵琶湖に向かって水が流れる。昔、農業が盛んだった時には、このようなため池があって、そこが農業用水になったり子どもの遊び場になっていたり、あるいは養魚場だったりという機能があった。

ところが農業が衰退する中で、そうした里山、里池が潰され、新興団地が造られたり、池が埋め立てられてマンションや廃棄物置場になったりしてしまう。

それを地元住民がどんな気持ちで受け止めていたのかも大切なことで、本来聖地である守るべき場所を手放して大変な問題を起こしてしまった地域住民の責任もあると思う。このことをしっかりと地元住民も受け止めてアーカイブに残す責任があると思う。県だけ、あるいは市だけ国だけが悪いわけではない。地域住民も悪かった。その点のお互いの反省と教訓を残していかなければいけないと思う。

○住民作成の証言集には具体的なことが書いてあり、ぜひとも載せて頂きたい。

○私が働き始めた当時、公害が発生した。私はその現場に関わっていたが、CODや大気の問題が出てきた時代があり、それを経て産廃関係や公害規制の法律がたくさんできた。新しい法律ができ、今やっと山や川がきれいになってきたが、公害行政は非常に難しい。そういう行政も見ながら、皆さんにどういう思いがあったのかということ載せて頂くとありがたい。公害は海外で日本の数倍以上にひどい状態になっている。経済や公害行政の状況とともにRD問題の経過を載せると、もっと違う視点から見られると思う。

○今関わってきているのは男性ばかりであるが、最初、この問題に敏感に反応したのは女性たちで、大事なことなので女性の声をぜひ吸い上げていただきたい。

5. 跡地利用検討の進め方について

⑨話し合う場の設定について、連絡協議会のメンバーを中心としつつとあるが、スケジュールについては、連絡協議会と同日に開催とあり、これでは連絡協議会のメンバーは話し合いに入れないのではないか。

⇒同日に開催と申しましたのは、連絡協議会に続いて跡地利用の話合いをするというふうなイメージですので、ここにいらっしゃる皆様につきましては、引き続きご参加いただくことを想定しております、と回答しました。